

HFSCC10 年史「あしあと」



第3回 「いよいよ発進 ① フェスティバル」

(敬称略)

2002年(平成14年)7月より ●本格的に活動開始

本格的に始まった活動は、世田谷区の地域紙「世田谷新聞」や、世田谷区教育委員会発行「せたがやの教育No.56」で紹介された。また、世田谷区体育指導委員協議会(現 スポーツ推進委員協議会)や、世田谷区青少年委員会のブロック地域合同研修会などで講演や発表の機会をいただき、東京都の社会体育研究協議会にもパネラーとしてお招きいただいた。

この年の11月10日、新体操のロサンゼルスオリンピック日本代表 山崎 浩子氏による『はじめよう!!新体操』の講習会に年少から小学校5年生までの70名が参加し、5種の手具を使って新体操を体験した(※1)。

また、第1回スポーツフェスティバルを11月3日に開催し、近隣小学校の児童や、中学校の生徒合わせて約100名、等々カ小学校おやじの会、東深沢・等々カコミュニティー、町会、教員、保護者、スタッフなど大人を加えて総勢約200名が参加。ドッジボール、卓球、ソフトバレーボールなどの競技と、新体操、居合いのエキシビションでにぎわった(※2)。



※1 新体操 山崎 浩子氏



※2 第1回スポーツフェスティバル
地域の「正しいラジオ体操普及隊」による指導
で行われたラジオ体操

フェスティバルを始めた経緯については、現会長で、当時から続けて実行委員でもある相原はこう述べている。

「このクラブを地域の人に知ってもらうため、人を集める方法としてフェスティバルを考えました。中身については漠然としていましたが、自主クラブの方々に相談したところ、具体的な種目があり実施できました。1回目はスポーツだけでした。保険代ということで100円を参加者からいただき開催しました。(10周年記念誌より抄録)」

この「有料」ということについて意見が有り、

I(実行委員・事務局マネージャー)：なぜ有料なのかという声があり、参加費をいただかなくてもできる方法を検討しました。プログラム冊子を作って広告を掲載すれば、ということになり、地域の商店会や企業にお願いに行きました。最初は30件くらいの掲載だったと思います。(10周年記念誌より抄録)

10年経つと、広告数は100件近くになり、フェスティバルの参加者もクラブ会員以外の方が多くなった。近隣の美容室では「プログラムを見て来てくださったお客さんがいる」との声も聞き、広告の依頼を通じて、地元とのコミュニケーションも深まり、地域とクラブを繋ぐ役割となった。

フェスティバルについて、自主クラブの立場からはどう見られていたのか。

S: 剣道はなじみの少ないスポーツかと思うが、地域の子もたちや保護者の方々に理解していただけるいい機会だと思う。低年齢でもできると理解され、小さい子どもの入部も増えている。フェスティバルの効果は大きい。

K: 1年に1回、お祭りに参加するという感覚で楽しんでいる。自分たちのできる形はと模索し、作業所で作っている焼き菓子の模擬店を出している。自分たちが参加可能なプログラムもそれぞれに楽しんでいる。(10周年記念誌より抄録)

2回目(2003年)は種目も、「ストラックアウト」「キックターゲット(※3)」などのゲーム的なもの、発表やデモンストレーションは「社交ダンス(※4)」「太極拳」、ゲストとして都立深沢高等学校の和太鼓演奏(※5)、絵画・書道・手づくりの会の各文化クラブの展示などが増えた。また、地元商店会有志やガールスカウトの模擬店もあり、入場者は500名近くになった。

その後、ギター・合唱・お琴の演奏会、親子体操ハトポップクラブの発表や剣道の体験が加わったり、「腕相撲」「パターゴルフ」「フットボーリング」などのゲーム的な個人種目がスタンプラリー形式になったり、冬季オリンピックで徐々に人気を得た種目をヒントに「やカーリング(※6)」が誕生したりと、工夫を凝らした内容となっていった。

8回目(2009年)からは隔年で、等々力小学校、東深沢小学校を第2会場とした。世田谷区の施策「世田谷9年教育」の協力関係にある東深沢中学校・等々力小学校・東深沢小学校の3校を結ぶという点で、効果が有ったのではないかと。各校の先生方も積極的に協力して下さるようになった。

<スポーツ・文化フェスティバル>

年一回秋に開催するスポーツ競技と文化クラブの発表を主としたイベント。会員以外の地域の方々にも広く参加してもらうことにより、本クラブの活動を理解してもらい、地域とのコミュニケーションをより緊密なものにすると共に、活動の趣旨である「児童、生徒の健全育成」、「豊かな地域づくり」を地域と一体となって推進するための一助とすることを目的としている。

基本的な事業費は(公財)東京都スポーツ文化事業団の助成を得て、クラブの会計からも拠出。プログラムへの広告掲載、当日の出店など地域の商店、企業、及び地元商店会や町会、関係団体、及び等々力小学校、東深沢小学校の協力、自主クラブ会員の協力も大きな力となり実施されている。

第3回(2004年)からは中学生ボランティアが参加し、綿菓子やポップコーン販売、自転車整理などに力を貸してもらっている。参加者も1,000名前後から1,500名くらいまでに増えている。



※3 キックターゲット



※4 社交ダンス



※5 都立深沢高校の和太鼓演奏



※6 やカーリング